

③スポーツへのアクセス向上～普及・強化～

全世界「JICA海外協力隊が指導した オリ・パラ選手とSFTへの貢献」

1965年～継続中(2023年9月現在)



女子7人制ラグビー代表チームの
コーチを務める隊員の指導(マダガスカル)

背景/課題

開発途上地域では、ソフトとハード両面のインフラ不足、文化的・社会的・経済的な背景による制約、紛争などによる不安定な情勢などの様々な理由から、スポーツへのアクセスは限定的となっている。このような環境でも練習に取り組み、活躍する選手たちは、多くの人々に夢や感動を与えている。

目的

- 幅広い年代へのスポーツ指導
- ナショナルチームの強化
- 健全な心身の育成
- 障害者スポーツの指導と普及

活動内容

- 国代表チームへ指導を行い、選手のオリンピック・パラリンピックへの出場を目指す。
- 小学校から社会人までの幅広い層の男女に指導し、スポーツの一層の普及を目指す。

成果

- JICA海外協力隊が指導したオリンピック・パラリンピックの選手は、1988年ソウル大会以降計92名で、メダル獲得数は金3個、銀4個にのぼる。(2016年時点)
- スポーツを通して、競技能力の向上のみならず礼儀作法やマナーの指導など、青少年の健全な心身の育成に貢献している。